

特別企画

障がい者スポーツに取り組むクラブ

NPO法人かなざわ総合スポーツクラブ ＜石川県金沢市＞

総合型クラブは、障がい者スポーツの推進などの様々な地域課題の解決に向け、地域スポーツ団体等と連携を図ることが重要となってきます。また、地域コミュニティの核として期待されている総合型クラブは、地域の障がい者がスポーツに親しむことができる環境を今後さらに提供することも望まれております。

そこで今回は、障がいのある方も活動しているクラブについてご紹介いたします。

1 クラブ概要

平成18年（2006年）に準備委員会を立ち上げ、平成20年3月1日に設立、同年9月NPO法人として認証されました。金沢市とその周辺域の生活圏が活動エリアです。

設立は、公益社団法人金沢青年会議所のメンバーとバドミントン・スポーツ少年団「金沢サンシャトルズ」が母体となり協働で立ち上げました。

指導スタッフの半分以上が学生

現在、定期教室事業を軸に、外部の委託指導事業、イベント事業の三つの柱で事業を展開しています。定期教室は、10種目32教室、会員数は401名（令和2年12月現在）です。有給職員は、3名（内パート職1名）、非常勤職員1名です。登録指導者・スタッフは61名です。指導者の半分以上が学生というクラブの特徴があります。

2 陸上教室で障がい者スポーツを展開

特別支援学校卒業生が中心のクラブとの協働で始動

平成3年、特別支援学校の知的障がいのある卒業生を中心に、「春風クラブ」が結成されました。同クラブは年齢、性別、障がいの有無を問わず、陸上競技を生涯にわたって楽しむために、週2回の定期練習のほか、季節ごとの交流のためのイベント（バーベキュー、ボウリング大会）などの活動を実施しています。

平成18年のかなざわ総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会にも、陸上競技関係者の参加が多かったこともあり、陸上競技教室が当クラブの中心事業となりました。当クラブ発足当初より春風クラブの監督である井上明浩氏に参画いただき、春風クラブと協働し、主として陸上競技教室事業を模索し始めました。

会費の徴収で有償指導コーチを確保

当クラブ設立後の4年間は、補助金事業などを中心に活動していましたが、平成22年度より春風クラブのメンバーが当クラブの会員となり、会費を徴収することに合意が得られ、この会費収入から有償指導コーチを確保することができるようになりました。同時に、知的障がい者以外の視覚障がい者、聴覚障がい者や身体障がい者(脳性麻痺、脊髄損傷他)を受け入れるようになりました。

【春風クラブ 内容】

1～2回/週、18:30～20:00、90分/回、年間通じて、金沢市営陸上競技場で教室を展開しております。

平成21年度福祉医療機構助成金受託 知的・身体障害者陸上競技選手育成強化事業
令和2年度石川県障害者スポーツ普及促進事業受託

【事業にかかる経費など】

約250,000円/年

人員を要する障がい者教室 知的障がい者の会費は低額に設定

障がい者対象の教室では、それぞれの障害のレベルに応じたきめ細かな指導と障がい者の安全確保等に人員を要します。そのため、指導者対会員の比率が、健常者が対象になる教室指導に比べ指導者割合が高くなるようにするということと、特に知的障がい者においては、経済的格差の視点から会費を低額に設定する配慮が必要となります。

大学生を中心に無償指導スタッフを確保

かといって、クラブ全体の経済的基盤が盤石でない場合、多額の指導謝金を賄うことができないので、限られた有償指導者・スタッフ以外に無償の指導者・スタッフを要します。無償の人員を確保するため、コーチ間の紹介だけでなく、金沢市は人口に対する学生数が多いことから、障がい者教育、あるいは障がい者の生活支援等に関心の高い学生に、大学を通じて声掛けをさせていただいています。また、医療・福祉関係の補助金などの活用を心掛けています。



水曜日、金曜日の「春風クラブ」は障がい者を対象に定期で、月曜日「おとなのマラソン教室」がインクルージョン事業として新規に募集されました。



活動は、挨拶の後、軽いランニング、その後の体操、補強運動、専門種目（短距離グループ、長距離グループ）に分かれて練習します。

3 事業実施で得たもの

競技力向上には質の高い指導者の確保が必要

障がい者、特に知的障がい者の方の経済基盤は厳しく、会費を低く設定しないと継続が困難となり得ることが多くありましたが、有償指導者は最小限に抑え、無償指導者によって、見守り・指導を担保しました。これにより、およそ健常者の約半分の月会費に設定することで継続ができています。

過去にはパラリンピック（陸上）、世界知的障がい者陸上選手権大会等の世界大会に出場という活動成果も得られましたが、日本全体の障がい者スポーツの競技力が向上しているのと、春風クラブの選手の年齢が高くなってきている（平均33.97歳）ため、当クラブの参加者にとって上位入賞が困難になっています。それに伴い、保護者からは、よりきめ細かく、高い指導力を持った指導者確保を望まれており、これに応えるためには、より多くの資源投入が必要になり、経済的バランスを保つ為により一層の努力が必要となってくると考えています。

自ら通常教室に変わる若手障がい者も

近年、若い会員の中には、健常者の教室に自ら求めて通うようになった会員もあり、少なからず、クラブの存在は自然にインクルーシブ社会へ、障がい者のスポーツ振興を援助するものと感じております。

障がい者への指導を通じて成長するスタッフ

障がい者を対象とした事業の指導者は、社会人や学生たちと様々です。指導者の中には、障がい者を指導することで、やりがいを感じることができ、彼らを指導することで、指導力や対人関係づくりに、より自信を持つことができたという感想も聞けました。

指導面では、基礎に立ち返り、繰り返し丁寧に声を掛け指導することが求められ、それに対して素直に応えてくださる障がい者の方に、素直な心と真摯(しんし)な競技への姿勢から学ぶことが多いようです。彼らのひたむきな姿勢に、新しい価値観を教えられ、指導する側も影響を受け成長できていると思います。

4

障がい者と健常者のインクルーシブな事業確立が目標

ほとんどの定期教室の会場は、公共スポーツ施設もしくは学校施設を利用させていただいています。特に天候が不安定で悪い日が多い、冬季の会場については、他団体との競争が激化して、スタッフには施設確保に労力とストレスがかかっています。それに加え、新型コロナウイルス感染拡大予防措置ということで、人数制限等で、さらに会場確保が難しくなっています。

障がい者、特に知的障がい者は、一般の会社員等に比べ、比較的早い時刻に教室に参加できる方が多くいらっしゃいます。しかし、一般職の指導者が、その時刻に合わせて指導、しかもボランティアとして教室指導に入るというマッチングも教室開催の困難さの要因になっています。

施設・送迎等の社会的インフラ、経済的なバックアップが不可欠

当クラブの障がい者教室は、障がい者と健常者のインクルーシブな事業展開を目指しています。そのためには、施設、送迎などの社会的インフラや経済的なバックアップが必要となるのではないかと思います。そのことにより、障がいがあっても、当人も保護者も不安なく、多くの選択肢から好きなスポーツを選べる、健康づくりのための運動が継続できるという、豊かで潤いのある暮らしに一步でも近づけるのではないかと思います。

障がいの有無を問わないランニング教室を新規開設

当クラブでは、石川県のモデル事業として、障がいの有無を問わないランニング教室を新規開設し、自然に交流し、助け合える定期教室事業、さらには、小学生のお子さんとその親御さんという親子を対象にしたランニングイベントの開催により、幼い時からスポーツを通じ、障がいの有無を問わないインクルーシブな事業展開を確立したいと考えています。

(NPO法人かなざわ総合スポーツクラブ クラブマネジャー 竹井 早葉子)

クラブ プロフィール

設立年月日 平成20年3月1日

所在地 石川県金沢市中村町26-43

運 営 会員数459名(令和2年2月現在)、予算規模2,430万円(令和2年度)

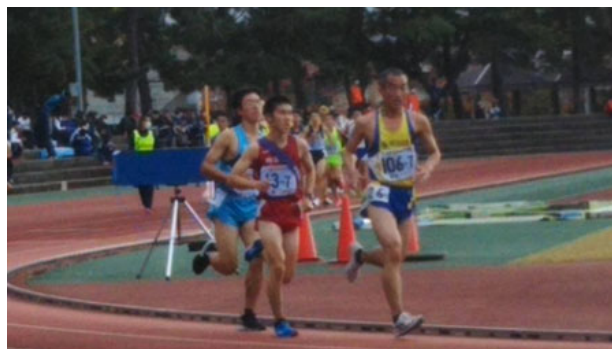
特 徴

- ・広域エリアでの展開
- ・発足母体が、一般社団法人金沢青年会議所およびそのOBとスポーツ少年団単位団の連携からスタート
- ・単位人口に対する学生数の多さが地域的特徴であることから、指導者・スタッフに学生力を活用し、社会に羽ばたく前のキャリア教育の場となっている

連絡先 〒921-8022 石川県金沢市中村町26-43 VIDA金沢2F
TEL/FAX 076-287-3789
URL <http://kanazawa-ssc.jp/>
E-Mail kssports@friend.ocn.ne.jp



2020年11月1日に開催された「石川県駅伝競走選手権大会」で、この日の参加者の集合写真



2020年11月1日に開催された「石川県駅伝競走選手権大会」での力走です(青と黄色のユニフォーム)